

- 人材養成ユニット名 「安全・安心な社会を実現する科学技術人材養成」  
○代表者名 「御厨 貴 東京大学先端科学技術研究センター教授」  
○提案機関名 「東京大学先端科学技術研究センター」

## 計画の目標・概要

### 1. 目標

#### ○人材養成開始後3年目の目標

- ・(一般) 安全・安心分野に問題に従事するNPO/NGOスタッフ、地方議員、その他意識の高い一般を計50名程度採用、科学技術の視点をもって安全・安心な社会生活の実現について現場で検討・実行できるレベルまで養成
- ・(実務専門家) 若手行政官を20名程度採用。安全・安心分野における政策立案を科学的手法を用いて実行できるレベルまで養成
- ・(学問パイオニア) 科学技術と安全保障の各分野におけるドクターレベルの研究員を5名程度採用。専門家として日本の安全・安心実現に向けた取り組みの核となりうるレベルまで養成
- ・(ジャーナリスト) 科学技術と安全・安心に専門性をもつジャーナリストを10名採用・養成

#### ○人材養成開始5年後の目標

- ・3年目の養成人数目標を倍増。ほぼ半数についてはリスクマネジメント・安全保障の実務家・専門家として、安全保障関連政府機関、国際機関、主要メディア、大学などに供給
- ・従来の安全工学(理系)と安全保障学(文系)の融合領域である新たなる「実践安全・安心学」の体系化とその学問的ハブの構築

### 2. 内容

- ・(共通) 科学技術と安全・安心、安全保障論、ジャーナリズム分野の専門家による週1特別講義
- ・(実務専門家) 最新世界情勢、日本の安全・安心を実現するための科学技術政策などについて、文理の境なく討議し、政策立案演習を行う演習の開催
- ・(実務専門家) 安全保障実務政府機関、国際機関へのインターン派遣
- ・(ジャーナリスト) 「安全・安心と科学技術」ジャーナル発刊を通じたジャーナリストOJT教育
- ・(学問パイオニア) 当該分野における日本で最高の教授陣との共同研究の実施
- ・(学問パイオニア) 国内外の専門家と若手研究者による「実践安全・安心学」構築のためのディスカッションフォーラムの定期的開催

## 諸外国の現状等

### 1. 現状

- ・テロの台頭など、社会の安全・安心を維持するには科学技術をその影の面も含めて深く理解した上で安全・安心の実現に活用していくことが不可欠であり、そのためには、安全・安心と科学技術の両分野にまたがるエキスパートの養成、学問的研究の深化とその実務への活用が必然であるという認識がアメリカを中心に当然のものとして世界的に広まっている

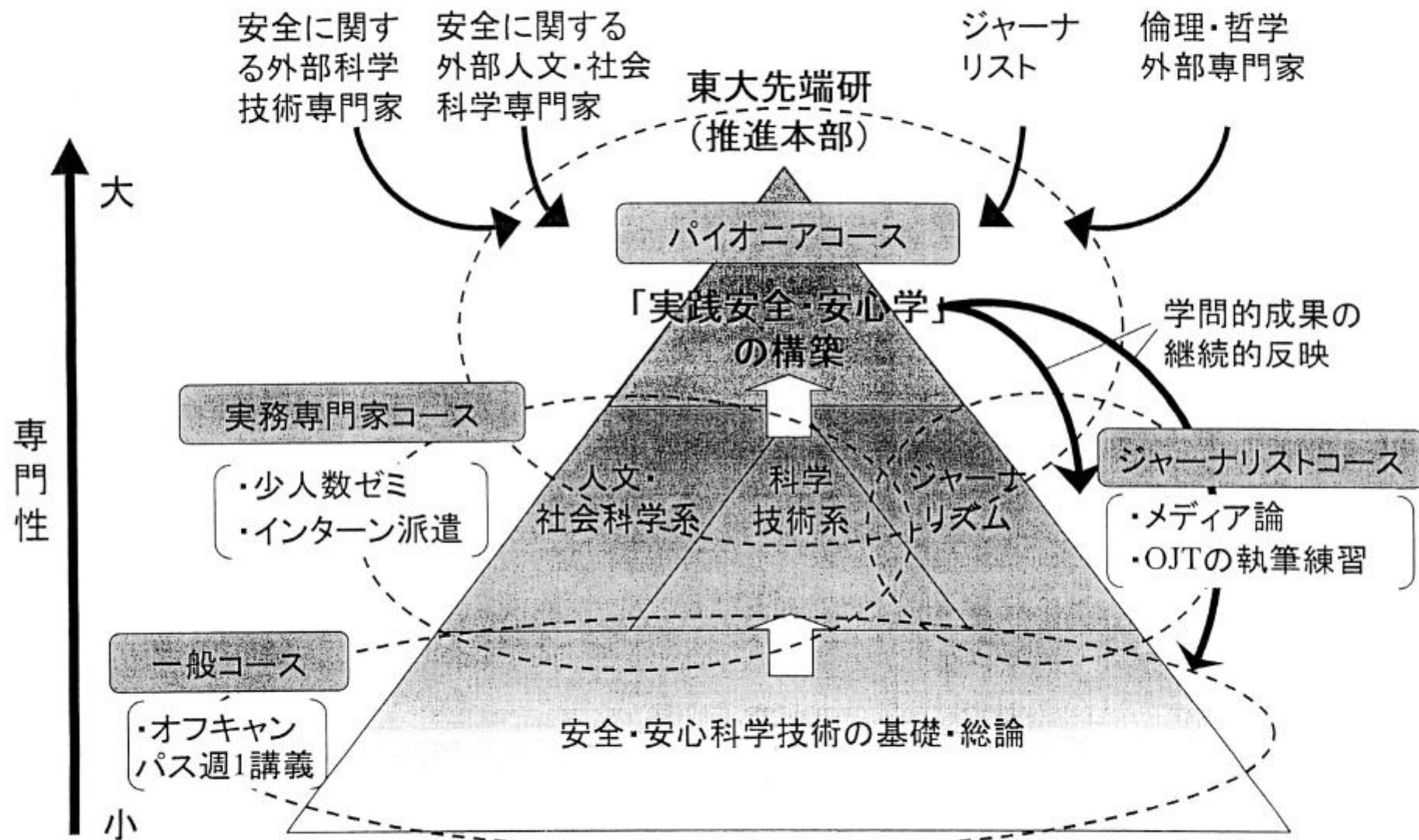
### 2. 我が国の状況

- ・日本では、科学技術と社会の安全・安心に関して知見をもつ人材が絶対的に不足している上、それらの人材は個々の狭い領域に特化して、国全体として実行すべき「安全・安心と科学技術」政策のグランドデザインが描ける状態になく、国家として広域化するリスクに対する迅速、柔軟な対応ができない。日本・国際社会の安心・安全への貢献のために、科学技術をいかに利用していくべきかを検討できる多様な人材の供給が国家的緊急課題である

## 計画進展・成果がもたらす利点

- ・本提案の進展により、科学技術と安全・安心分野における人材(民間活動家、実務専門家、研究者、ジャーナリスト)の養成、多様なキャリアパスの構築が行われることにより、日本の安全・安心のための科学技術政策の進化や、国際社会の安全に対する科学技術を通じた日本の貢献度の向上、安全・安心科学技術に対する国民のリテラシーの大幅向上が期待できる。また、「実践安全・安心学」の体系化により、今後の安全・安心分野を継続的に支えうる学問的支柱が構築される

# 人材養成内容・推進体制のイメージ



備考:一般コースは共通、その他コースは選択とし、自由な組み合わせを可能にする